

10月から75歳以上の医療費自己負担が倍になります —高齢者と家族を追い詰めることになりかねない医療費 自己負担増は中止させましょう

政府は10月より75歳以上の高齢者の医療費自己負担を原則2割負担とするとしています。

今までの倍の自己負担に高齢者は耐えられるのでしょうか？

多くの高齢者は月10万円に満たない僅かな国民年金で生活されています。

きょうと福祉倶楽部で支えている高齢者の生活から医療費負担の倍加がいかに過酷なのかを考えます。

久美子さん(仮名)は86歳。連れ合いが亡くなられてから独り暮らしを続けています。いつの頃から認知症が発症し、心配した妹さんやお友達が医師の診察を受けさせました。そこで医師から「この人は独り暮らしを続けるのは無理」「施設に入るか、妹さんが面倒をみてください」と宣告されました。悩んだ末、妹さんはご自分の住む家で同居することを決意しました。

だけど久美子さんはどうしてもご自分の家に帰ってしまうのです。

施設の費用を負担する資力もありません。そこでわたしたちに在宅で暮らせるように支援してほしいと依頼され今もご自宅で暮らし続けています

かつては歩行もできた久美子さんも時がたつにつれ機能の低下が進みます。いまや歩くことも排泄を自分でする事もできません。その久美子さんの暮らしを守るために介護保険や障がい者施策はフル活用です。その費用負担は介護保険だけで月額およそ37000円。通所施設の食費におよそ9000円と50000円近いお金がかかります。それに加えてこれからは医療費が倍です。暮らすにはそれ以外にもオムツ代も水道代も電気代もかかります。

賃貸住宅ならなら家賃も。

政府は介護保険の自己負担もさらに増やすことを検討しています。

この過酷な「取り立て」に耐えられる高齢者と家族がどれだけいるのでしょうか？

いのちを削る事になりかねない自己負担増は続けさせてはなりません。



夢のみずうみ村のご紹介

山口市にあるデイサービスセンター「夢のみずうみ村」をご紹介します。

きょうと福祉倶楽部ではこの施設に何度かスタッフの研修として見学させて頂きました。

男性は「デイサービスになじめない」という話をよく聞きます。なんでだろと考えると男性がこれまで生きてきた歴史は指示される事になっていないのかなと思います。会社組織でも家庭でも「男社会」で君臨していた人が多いのでしょうか。

そんな時代で生きてきた人が身体が不自由になった途端に施設の指示を受ける立場の逆転に耐えられないのでしょうか。

「夢のみずうみ村」は男性の参加もとても多いのです。

その秘密は「自己選択」「自己決定」の施設運営にあります。

利用者はその日そこでやりたいことを自分で決めて施設を利用します。

誰も利用者には強制はしません。

そして利用者が興味を持つプログラムがたくさん用意されています。

自分が主人公でいられる夢のみずうみ村はそんな男性でも今までの自分でいられるのだと思います。

乙訓地域でも欲しい施設です



新型コロナウイルス感染拡大に伴う
利用者みなさんへお願い

●サービス利用中は可能な限りサービスご利用の方もマスクの着用をお願いします。

●利用者、同居の家族のかたの体調不良(発熱など)はあらかじめきょうと福祉倶楽部までご連絡ください。



夢のみずうみ村
ホームページは
このQRコードから

有限会社 おとくに福祉研究所
きょうと福祉倶楽部

〒617-0824
長岡京市天神4丁目7-12 ハイッポ舎101号
TEL 075-958-2560 FAX 075-957-2808
E-mail info@fukushi-club.com